



平成 24 年度

2012

ソフト面の研修事業として、老人介護施設職員の資質向上を目的とした職員向けの研修、介護技術研修会等を8回実施し参加者の意見を取り入れ研修内容の充実をはかり三重県下177施設から244名の参加を得て実施した。

ハード面の助成事業として、老人施設の福祉環境充実を図る目的で軽自動車や各種車椅子等を寄贈、近年インフルエンザの流行や高齢者の増加に伴い介護施設での感染予防対策のため空気清浄機の活用が増加している為、イオン発生機プラズマクラスターの寄贈し、吉田逸郎理事長から目録並びに備品の贈呈を行った。

記念講演では、超高齢化社会を迎え、平成12年4月の介護保険制度導入から12年が経過した平成24年4月に4回目の介護報酬改正が実施されたのに伴い改正の要点を三重県健康福祉部長寿介護課、明石典男課長の「介護保険制度の状況!」と題した記念講演を行い、助成を受けた(社)育心会、羽柴施設長と(社)素問会、中野施設長の2法人から寄贈並びに施設職員研修会開催の感謝及び助成品の活用状況等法人の活動報告を受けた。

震災後1年が経って東北地方からの漂着物が米アラスカ州やカナダ西部の島にサッカーボールやバイクが漂着して持ち主が判明した。

4月22日新潟県佐渡市で放鳥トキのひなの誕生が36年ぶりに確認され、5月5日には2組めのひなの誕生が確認された。

5月5日国内50基の原子力発電が42年ぶりに全て運転を中止した。

5月21日太平洋側を中心とした日本

の広い範囲で太陽の中心部が月に隠され、細いリングのようになる金環日食が沖縄以来25年ぶりで観測された、列島の広範囲でみられるのは932年ぶりとなる。

6月6日金星の太陽面通過が観測され、次に観測できるのは105年先となる。

6月14日初めての6歳未満脳死判定がなされ心臓・肝臓・腎臓の臓器移植が実施された、15歳未満の脳死判定は2例目となる。

7月は九州北部を襲った記録的な大雨により浸水や壊れた住宅が2,800棟に上り、死者・行方不明者が30人を超えた、今回の大雨を「平成24年7月九州北部豪雨」と名付けられた。

12月16日第46回衆議院選挙が行われ自由民主党が圧勝し衆議院第1党となり3年3ヶ月ぶりに政権に復帰した。

12月26日第96代内閣総理大臣に安倍晋三が任命され第二次安倍内閣が発足、退陣後に再登板するのは故吉田茂元首相以来64年ぶりで、戦後二人目となる。

1月16日アルジェリア南東部のガス生産施設をイスラム武装勢力が襲撃、日本人10人を含む多数の外国人が殺害される。

震災から2年が経た3月11日現在死者15,882人、今だ行方不明者が2,668人を数えている。

平成24年度助成事業目録贈呈式



吉田逸郎理事長挨拶



寄贈品並びに目録贈呈



贈呈式

平成24年度助成事業目録贈呈式



記念講演



活動報告 中野素問会施設長



活動報告 羽柴育心会施設長

老人福祉施設等整備事業(助成・寄贈)

3,211,450円

平成24年度
寄贈品
一覧



軽自動車／2台



自走式・介助用車椅子／13台



フルリクライニング車椅子／7台



マイチルト車椅子／7台



エアーマット／4台



離床センサー／7台



イオン発生機プラズマクラスター／5台

多気町 社会福祉協議会	老人福祉環境整備事業 ささゆり苑の居宅介護支援と訪問介護の車輛が10年以上経過しており事業に支障が出ないよう軽自動車の更新 ◆ 軽自動車輛 1施設 2台	1,260,000円
近 隣 ・松阪市 ・伊勢市 ・多気郡 ・度会郡 各老人福祉施設	老人福祉環境整備事業 所有備品の老朽化、介護度の高い利用者が増加し不足と更新、 ◆ 自走式介助用車椅子 1施設 3台 （社）三重高齢者福祉会（老施 協和苑） ◆ フルリクライニング車椅子 1施設 1台 （社）三重豊生会（特養 多気彩幸） ◆ マイチルト車椅子 2施設 2台 （社）伊勢医心会（特養 神路園） 宮川福祉施設組合（養護 崇雲寮） 老朽化と備品不足による整備 ◆ エアーマット 1施設 1台 （社）北斗会（特養 大宮園） 利用者の安全確保とベットでの動向を把握するため ◆ 離床センサー 4施設 4台 （社）むつみ福祉会（グループ あゆみ園） （社）斎宮会（老保 みずほの里） （社）育心会（特養 多気天啓苑） （社）ゆ り（介保 はなのその） 利用者の体調管理と環境改善（かぜ予防） ◆ イオン発生機プラズマクラスター 3施設 3台 （社）松阪市社会福祉協議会（通所 嬉野支所） （社）玉城町社会福祉協議会（通所） （社）度会町社会福祉協議会（通所）	647,230円

左記以外の
県下各市町の
老人福祉施設

老人福祉環境整備事業

1,304,220円

車椅子利用者の増加による不足と老朽化による更新、利用者の高齢・重度化に伴う利用者増と老朽化による更新・重度化に伴う機能の高い車椅子の提供、貸出事業の整備

◆ 自走式介助用車椅子 4施設 10台

- （社）敬愛会（特養 慈宗院） 3台
- （社）素問会（デイ 芹の里） 3台
- （社）恵成会（ショート おおぞら） 3台
- （社）朝日町社会福祉協議会（貸出） 1台

◆ フルリクライニング車椅子 6施設 6台

- （社）はまゆう会（特養 第二フルハウス）
- （社）明合乃里会（グループ シルバータウン新町）
- （社）長茂会（特養 スバル台）
- （社）菊寿会（特養 みやま園）
- （社）紀和会（特養 熊南）
- （社）グリーンセンター福祉会（特養 グリーントピア名張）

◆ マイチルト車椅子 5施設 5台

- （社） 絆 （特養 みえ愛の里）
- （社）慈幸会（特養 すいせんの里）
- （社）千草きらら会（デイ 城山苑）
- （社）鈴鹿福祉会（特養 鈴鹿グリーンホーム）
- （社）福寿会（特養 福寿園）

利用者の重度化で、寝たきりが増加しているため褥創及び疾病予防、

◆ エアーマット 3施設 3台

- （社）明光会（特養 笑美の里）
- （社）杏南会（特養 たちばな園）
- （社）紀南特養老人ホーム組合（特養 宝寿園）

身体機能の重度化、利用者の寝たきりや認知症が増加しベットからの転倒防止、安全確保に不可欠

◆ 離床センサー 3施設 3台

- （社）白壽会（特養 豊野みかんの里）
- （社）英水会（特養 英水苑）
- （社）弘仁会（特養 国津園）

環境整備、感染症予防対策、

◆ イオン発生機プラズマクラスター 2施設 2台

- （社）鈴鹿市社会福祉協議会（訪介 本所）
- 三重郡老人福祉施設組合（養護 みずほ寮）

介護事業施設職員接遇研修会に先がけ、平成24年度介護事業施設職員研修会の開校式を行い、小林理事の挨拶の後、今年度実施予定の8回の研修会をスタートさせた。

第1回 介護施設職員研修会（接遇3年未満）（17）

（参加 34施設 47名）5月26日

法人（司会・玉城町・多気町社協・キングスガーデン三重・玉城町社協・愛恵会・松阪市社協・むつみ福祉会・明和町社協・斎宮会・度会町社協・三重高齢者福祉会・長茂会・杏南会・絆・はまゆう会・こしば福祉会・紀南特養ホーム組合・敬愛会・明合乃里会・青松園・白壽会・恵成会・青山福祉会・名張厚生協会・弘仁会・いがほくぶ・永甲会）

新規採用から3年未満の介護施設職員を対象にした接遇研修も回を重ねる毎に参加者も増え、福祉業務に携わって1年未満の受講生が6割を占め中には経験豊富な受講生まで幅広い参加となり年々希望者も増え接遇研修の必要性の高さを実感する。

介護職の仕事をして行く上で特に1年未満の受講生には接遇マナーの研修は初めての人が大半で利用者への対応の仕方の難しさを勉強し自分の仕事に誇りを持ち充実した毎日を過ごし利用者に満ち足りた気分を与え、お互いの成長の手伝をするための研修で職場での実践に繋げてもらいたい。



講演 “心からのサービス” 介護従事者の接遇マナー

講師 エム・アール・シー 足坂三長・井ノ口美津子

1. オリエンテーション
2. 社会人としての心構え
必要な基本能力とは、職場のエチケット、第一印象の大切さ
3. お客様を迎えるマナー

- 挨拶と丁寧なお辞儀、表情の大切さ、感じのよい態度、身だしなみとオシャレ
4. 社会的な言葉づかい
依頼文・肯定文、職場での言葉づかい、話し方の工夫
 5. 応接の基本動作
物の授受、名刺の交換、指し示し方・案内の仕方・印鑑の処理・書類の破棄
 6. 利用者送迎の対応
訪問時のマナー、言葉のトレーニング、送迎時の対応実習
 7. ビジネス電話対応
電話の受け方・かけ方、事例による対応実習、取次ぎ電話対応・伝言メモ・道案内
 8. サービスの心得

受講生の感想

笑顔を忘れず常に見られていることを意識したい、相手に伝えることの大切さを実感、介護は人対人なので言葉遣いや話し方や挨拶に気を付けたい、相手にどう伝わったのかが大切と言うことの大切さを実感、反省するところが多く少しずつでも直して行きたい、気づかひの出来る介護職も目指したい、言葉の大切さ表情の重要性を痛感した、自分がどれだけマナーを知らなかったか教えられた、人と人との対応やコミュニケーションが大切なことを実感、研修内容を持ち帰り施設が良くなるように努めたい、利用者に伝わらなければ意味がないことを痛感。

第2回 介護施設職員研修会（接遇4年以上）（18）

（参加 29施設 39名） 6月14日

法人（多気町社協・キングスガーデン三重・玉城町社協・愛恵会・松阪市社協・むつみ福祉会・度会町社協・長茂会・エイジハウス・絆・愛友会・はまゆう会・敬愛会・寿泉会・明合乃里・青松園・白寿会・素問会・恵成会・青山福祉会・敬親会・いがほくぶ・三重郡老福組合・川越町社協）

介護職勤務4年以上の職員を対象とした研修ですが経験豊かな職員でも接遇研修は初めてという職員も多く毎回定員をはるかに超える受講者で一人一人熱心に研修を受け自分の物にしようとの努力が感じられ研修の成果を職場に帰ってフィードバックして行きたいとの感想も聞かれました。

研修開始の挨拶では声が小さく聞こえにくかったが、時間が経ち休憩を挟む頃にはしっかりした口調で挨拶が出来るようになった。

話し方の工夫の実技でアクセントの取り方に苦労し受講者のなかで苦笑したり自分ではこのようなアクセントの取り方をするのにといい思いに話しあっていた。

介護の声かけの実技指導では利用者の75%が「嬉しい」と言われる言葉を取り入れて実習をしたがなかなか感情を込めた声かけが出来ず苦労していた。

介護職として利用者に対しての声掛けやコミュニケーションの取り方等、接遇の必要性の認識を高め、電話対応の実技では相手が見えないため早口になったり、喋り方に強弱が付けられずに一本調子になる応対し等難しさが

感じられ対応の善し悪しが施設のイメージに大きく影響することの研修でもあった。



講演 “心からのサービス” 介護従事者の接遇マナー

講師 エム・アール・シー 足坂三長・井ノ口美津子

1. オリエンテーション
2. 心のこもった話し方
話し方の工夫・職場での話し方・介護での声の掛け方・話し方、聞き方のマナー
3. コミュニケーション
コミュニケーションとは・悪くなる要因・コミュニケーションの取り方・グループ討議・発表
4. 基本行動とマナーの見直し
応接の基本動作（物の授受・名刺の交換）・第一印象と挨拶・表情と態度・身嗜みと言葉遣い
5. 来客・訪問対応
来客訪問のマナー・来客訪問の対応用語・グループで対応実習（お迎えからお見送り）
6. 信頼される電話対応
電話の受け方、掛け方・事例による対応実習（取次ぎ、苦情電話）・イレギュラーな対応
7. 接客者の心構え

受講生の感想

挨拶や笑顔の大切さ、言葉ずかひの大事さが分かった、普段意識しているようで出来ていない事を痛感、電話対応では相手の表情が見えない分慎重に丁寧な対応を心掛けたい、研修を受けて利用者さんには伝わっていないと実感した、話すなかで語尾の使い方で利用者の与える印象が違うことに気づいた、自己満足をしていたことに気づいた、聞き方伝え方の難しさを実感、職員に参考になる研修事項が多いので職場に持ち帰って伝えたい。

第3回 福祉レクリエーション研修会（5）

（参加 21施設 29名） 7月12日

法人（愛恵会・三重高齢者福祉会・育心会・キングスガーデン三重・松阪市社協・伊勢市社協・多気町社協・青松園・白寿会・素問会・愛友会・菊寿会・杏南会・紀和会・紀南特養ホーム組合・永甲会・千種きらら会・恵成会・青山福祉会・弘仁会）

運動や娯楽で心身を爽快にし気晴らしや休養を取り入れた集団レクで遊びから価値を引き出し生活を活性化し利用者にも楽しんで頂き自分も楽しむ。

一人ひとりの参加者が、レクリエーション活動を通して仲間との交流や、機能低下を防止し、日々の生活を豊かにして、生きる意欲につなげる。食事の時、入浴時、寝ている時でもレク支援（生活支援）は出来る。

高齢者や障害者のレクリエーションはハンディキャップやマイナス面に着目せず、長所・潜在能力・自在能力や可能性の着目して生活を前向きに変えていく力を発揮できるようなレクリエーション援助をしていく。

レクリエーションの中にゲームを取り入れて利用者さんを楽しく生活の場に繋げて行き利用者の幸せ、助け合い個々の援助を行う。

福祉レクリエーションは楽しむ事が大事で出来るという喜びを与えることも大切なことで福祉現場ではその人の持っている残存機能に満足するのではなく少しずつ階段を登るようにしていき出来ないからと切り捨てるのではなく引き出してやる事が大切である、また競争させるのではなく共感を考える。

毎日楽しく笑って生活できれば、健康で生きがいを持って生活できれば・・・レクリエーション財を通してアプローチ法を学ぶ。



講演 福祉レクリエーション

講師 三重県レクリエーション協会 加納安子

1. レクリエーション

て何、語源、とは、意義、目的（心と体の健康づくり、生きがいづくり、社会参加→自立支援）

2. 福祉レクリエーション

高齢者の現状、福祉とは（平等・共生社会・QOLの向上・質を高め

- る)、捉え方、プロセスの活用
3. レクリエーション支援のポイント
伝達技術、展開・演出、(楽しさの本質を理解した支援、特性・個性を考えた演目選び・人間交流と言葉がけ)
4. 実技指導
体操、導入、交流、自己表現

受講生の感想

楽しみながら研修が出来た、利用者さんの気持ちで実習体験が出来た、ゲームだけがレクでなく化粧・毛染めもレクの一貫であることが分かった、身近な生活の中にもレクの道具に応用出来る、工夫すれば道具を使わずにレクリエーション出来る。

第4回 認知症介護研修会(6)

(参加 31施設 43名) 8月30日

法人(愛恵会・三重高齢者福祉会・むつみ会・斎宮会・育心会・笠木御所桜会・キングスガーデン三重・伊勢医心会・北斗会・松阪市社協・伊勢市社協・多気町社協・玉城町社協・度会町社協・敬愛会・青松園・白寿会・はまゆう会・愛友会・菊寿会・杏南会・紀和会・紀南特養ホーム組合・永甲会・千草さらら会・福寿会・恵成会・青山福祉会)

認知症高齢者の方に対する介護サービスの提供には、より高度な専門性が必要なことから高齢者介護実務者及びその指導的立場にある者に対し認知症介護に関する研修を実施し認知症介護技術の向上を図ることを目的とします。

施設において認知症の利用者が増える中、介護職員の介護対応が切実な問題として起こっております。



講演 認知症介護研修「認知症の人へのかかわりを振り返る」

講師 サポートさくら 大西道子、野口美枝

認知症の介護は本人が何をしたいかを察知し、出来るだけ本人の気持ち

を大事にし自分で出来るように支援する、介護者の都合で認知症の人の行動を抑え込んだり介護漬けにしない。

記憶が不安定になっているので、以前のことを聞き出すようなことはしないでアドバイスをするような接し方をする。

1. 認知症の人の心の理解と支援のポイント（講義）

2. 映画「折り梅」観賞

映画を見ながら場面と主人公が体験している気持ち、状態、その理由を観察しメモする（演習1）

3. 「クリスティーヌ・ブライアン講演」のDVD観賞

このDVDはクリスティーヌ・ブライアンの来日公演を中心に認知症と診断された頃に彼女が体験したことや、認知症の進行過程で、その時々が必要と感じたケアなどについて、彼女自身の発言をまとめたものです。クリスティーヌ・ブライアンさんは46歳でアルツハイマー病と診断され、当初、彼女は3人の娘を抱え、シングルマザーで、オーストラリア政府の要職に就き多忙な日々を送っていました。告知を受けた2年後、ポールさんと出会い結婚、その後夫や家族に支えられながら暮らしています。

4. 個人ワーク（演習2）

映画「折り梅」の観賞を通じて「支援者として利用者の心にどう向き合ってきたか？自分のけれなでのケアを振り返る

5. グループワーク（演習3）

1）自己紹介、司会、発表者を決める

2）行動障害への対応

認知症の人が求めているケアとは？

6. 発表・まとめ

受講生の感想

他の施設の問題点やケア方法などの意見が聞けて参考になった、認知症の方の気持ちになってケアしたい、ケアの難しさを痛感、優しい気持ちで利用者に接していきたい。

第5回 介護技術研修会（3）

（参加 17施設 25名） 9月13日

法人（愛恵会・三重高齢者福祉会・笠木御所桜会・キングスガーデン三重・伊勢市社協・多気町社協・玉城町社協・度会町社協・宮川福祉施設組合・青松園・絆・明合乃里会・菊寿会・紀和会・エイジハウス・青山福祉会・名張厚生協会）

食事介助では誤嚥させずに安全で快適に食事介助が出来るか参加者が利用者、介護者、観察者を交代で実施体験や利用者の食事状態の観察を取り入れながらの研修。

車椅子では操作方法や走行時の注意点、各パーツの名称や整備状況等の確認の必要性、移動介助は実際に横断歩道、芝生広場、段差、坂道で移動して室内や野外で利用者が体感していることを参加者もその場その場での恐怖感を感じながらお互いが体験し利用者に接する際の傾聴の心持ちの大切さ等実技を中心とした研修。



講演 食事介助・車いすでの移動介助

講師 サポートさくら 大西道子、野口美枝

高齢者は諸機能の低下からの誤嚥や窒息の事故発生の危険性がある。

身体状況や目的にあわせての車椅子の選定、介助される人の気持ちを理解して丁寧に介助する。

1. 食事介助
2. 食事介助（演習）
誤嚥させずに安全で快適に食事介助が出来る
3. 車いすでの移動介助
4. 車いすでの移動介助（演習）
外へ出かけよう！（野外での実技）

受講生の感想

車椅子では恐怖感や不安を体験した、簡単に座位を直せることを演習できた、声掛け必要性。食事介助では利用者の気持ちがよく分かった、無理に食事を与えるのではなく利用者に合わせる、食事を与えるスピード。

今日の実演で介護される側の気持ちが良く分かった。利用者の日々体験していることが自ら体験でき勉強になった。声を掛けるタイミングの大切さを実感。

第6回 介護技術研修会（4）

（参加 18施設 25名） 10月18日

法人（愛恵会・笠木御所校会・キングスガーデン三重・北斗会・松阪市社協・伊勢市社協・多気町社協・玉城町社協・度会町社協・宮川福祉施設組合・敬愛会・青松園・絆・菊寿会・紀和会・エイジハウス・福寿会・青山福祉会）

移乗・移動・更衣の介助のコツを掴み、安全に介助し介助される側の気持ちを理解し介護のポイントを学習する。

利用者、介護者、観察者を交代で実施し、それぞれが感じたこと、学んだこと等をグループで話し合い整理し演習を通じて学んだことを共有する研修。



講演 介護技術研修（ベット上の移動と移乗・更衣の介助）

講師 サポートさくら 大西道子、野口美枝

1. ベット上の移動と移乗介助のポイント
2. ベット上の移動と移乗介助のポイント（演習）
3. グループ・ワーク
4. 更衣介助のポイント
5. 更衣介助のポイント（演習）
6. グループ・ワーク

受講生の感想

利用者さんと介護者にとって安全で安心で安楽な介護ができる事が大切だと感じた、何事も声かけを行ってから動作に移る基本を学んだ、目的意識を持って介護をして行きたい、他施設の意見も参考になった、利用者さんの達成感や生きがいに繋がりたい。

第7回 介護職場の課題解決研修会（7）

（参加 11施設 16名） 11月15日

法人（キングスガーデン三重・多気町社協・玉城町社協・度会町社協・青松園・明合乃里会・菊寿会・杏南会・紀南特養ホーム組合・青山福祉会・こしば福祉会）

この、研修は介護・福祉施設の利用者やその家族の期待するサービスを常に意識しながら行動することが基本となる利用者本位のサービスの実施が求められる職場です。

また、乳幼児から老人、障害者と対象も広く、入所・通所・訪問・居宅介護支援などと形態も様々で従事する職員個人の知識やスキルなどの幅の広さが求められます。

しかし、これらの組織は施設の目的に適した編成になっていることが多く職員一人ひとりが持つノウハウ・知識・経験を活かすために施設を越えた交流が重要になってきます。

そのため、関係者の対話とコミュニケーションによる経験の共有が仕事の質の向上に大きな影響を与えることから日頃の経験が気楽に交換できる場の設定も重要と言えます。

また、「福祉の受け手はお客様」「選ばれる福祉サービス」の時代です。素のために“質の高いサービス”を生み出す努力が必要です、利用者がお客様となれば、今まで遠慮して口にしなかった苦情の解決も求められてきます、お客様の希望に適切に応えられるために、福祉の分野にも企業努力が求められるのです。

福祉改革により、これからの福祉事業の経営には「顧客本位」と「全員参加」と「継続的な改善」を進める活動が不可欠となってきます。

たとえば、職場にはいろいろな問題が発生するものです、その問題を放っておくと段々と大きくなり取り返しのつかない状況に追い込まれてしまいます。

1：29：300の法則（ハインリヒの法則）、これは一つの問題の奥には29もの中問題があり、29の中問題の奥には300もの小問題があると言われていて、それらの問題を日常業務の中で解決していくことが“利用者へのサービス”につながっていきます。

民間企業では、1948年からQC手法を導入し、そのQCサークル活動を通して企業が発展してきました、既に、福祉の職場でもQCサークル活動に取り組んでいる所もあります。

問題の解決には有効的で且つ効率的な『手段や方法』が必要です。問題の解決を体系的に捉えて解決を図っていく手段である『QC手法』を勉強します。



講演 課題解決研修会 “職場の改善は、自分達で”

講師 エム・アール・シー 足坂三長・井ノ口美津子

1. 利用者サービスの向上

(1) 介護・福祉施設の活動

- （2）問題とは、問題の捉え方
- （3）問題解決の三要素
- 2. 問題解決の進め方
 - （1）ブレinstoーミング
 - （2）問題解決の手順
 - （3）改善ステップの例
- 3. 職場の問題点の発見
 - （1）問題発見の着目点
 - （2）問題点の洗い出し
 - （3）テーマの選定 グループ討議
- 4. テーマに沿った解決の実施
 - （1）特性要因図について
 - （2）特性要因の作成 グループ討議
 - （3）改善要因の抽出
 - （4）対策の立て方（6W3H） グループ討議
- 5. 問題解決の発表
 - （1）テーマ選択から対策まで
各グループ毎
- 6. QC活動の意義

受講生の感想

他施設でも同じ問題を抱えているのが分かった。情報交換が出来た。出席者の意見・見方・方法が聞けた。色々な課題解決の方法や要因が学べた。周りの方の意見を聞き解決策を導き出すことの大切さが分かった。一つの問題に対しての解決策の話し合いコミュニケーションの大切さを再確認できた。利用者さまの為に何ができるか考えさせられた。

第8回 リーダー育成研修会（7）

（参加 16施設 20名）12月13日

法人（長寿会・斎宮会・キングスガーデン三重・北斗会・多気町社協・玉城町社協・敬愛会・青松園・明合乃里会・菊寿会・紀南特養ホーム組合・杏南会・福寿会・青山福祉会）

この研修会は、お互いが協力しあいながら進めていきます、相手の鏡となり素直な心でフィードバックをして、お互いの成長のお手伝いをして下さい。素直な気持ちで精一杯取り組んで下さい、その量だけ自分のものにすることが出来ます。

施設では人材がとても大切です、また職場においても人材は業績を大きく影響を与えます、職員の中でもリーダーになる職員の影響も大きくなります。

今、注目されております職員研修で集団を統率し人を動かしリーダーシップを発揮していく職員の養成、職場の中でも部下に対して「期待」「関心」を持ち成長に必要なポイントにきずかせ自己啓発をさせ成長を促し部下の指導をしていく上で特に必要になるコーチング技術の習得を目的とし参加者が実践的なコーチング内容の会話を作り実習に取り入れた研修であります。



講演 リーダー研修 “CSの心を高めよう!”

講師 エム・アール・シー 足坂三長・井ノ口美津子

1. オリエンテーション
2. チームワーク
グループ作業（実習）、活動のポイント、コミュニケーションとは
3. コーチングの基礎
ティーチングとコーチングの違い、コーチングの三原則、コーチングの話法（導入→会話（事例）→確認）、話し方の工夫
4. コーチングの実習
コーチングの会話（コメント）、指導ストーリー作成、一人二組で実践、タイプ別コーチング
5. リーダーシップ
リーダーシップの定義、指導者のあり方、リーダーの心得
6. まとめ

受講生の感想

コーチングと言う技法を初めて知った、相手の意見を聞きだす事は難しいと思いましたが意見を聞きだすことに心がけたい、コミュニケーションの大切さを分かりやすく具体的に練習が出来た、コーチングの会話がとても難しかった、リーダーの心得・役割等学ぶところが多かった、話す速度の「ゆっくり」を意識していきたい、リーダーの考え方・定義を知ることができた、他施設の職員の方々と話もでき自己啓発になった、研修に参加して何年後かにスキルアップしたのだと思えるように成りたい、指導について見つめなおしてみたい。

老人福祉団体運営活動事業

34,807円

第15回吉田福祉基金杯GB大会

後援（財）吉田福祉基金 5月13日

年々チームが減少するなか吉田福祉基金杯ゲートボール大会は県下の大会においても一番大きな大会となり本年度も県内各ブロックから大会参加希望が沢山伝えられた、本大会ではより多くのチームが参加出来るよう多気スポーツ公園野球場に14面のコートを作り大会を実施した。

天候に恵まれゲートボール会場に春の日差しがそそぐなか、多数の来賓を迎え県下84チームから500名の役員、選手が参加し前年度優勝の天啓クラブB主将の選手宣誓により競技を開始し、選手たちは優勝に向かいチーム一丸となり一つでも多くのゲートを通してさせようと、日頃の練習成果を発揮し真剣にプレーしチーム間の融和を図りながら和気あいあいに競技を進めた。

優 勝	天啓クラブA（多気町）チーム
準優勝	田 丸 B（玉城町）チーム
3 位	天啓クラブB（多気町）チーム



久保行央大会会長挨拶



開会式



選手宣誓



大会役員及び来賓者 始球式



大会競技



優勝 天啓クラブA（多気町）チーム